

# 第1章 複式学級を有する学校の特性

## 第1節 複式学級を有する学校の現状と一般的特性

### 1 複式学級を有する学校の現状

目まぐるしく急激に変化する現代社会の中で、学校における教育環境は時代とともに変わりつつある。特に児童生徒数の減少傾向は、へき地に限らず平地においても、ますます小規模校化に拍車をかけており、小学校においては複式指導の形態をとる学校が増えている。いうまでもなく、小規模性・少人数性は、複式学級を有する学校に共通する特性ではあるが、この特性は各学校の実態によっても大きく異なっているため、これをどのようにとらえ、生かしていくかが、今後の複式指導の充実のための重要な鍵となっている。

このような中、学校教育の充実はもとより、家庭教育や社会教育を充実させ、地域ぐるみで生涯学習に参加しようとする気運が強まり、教育に対する意識も大きく変容しようとしている。少人数化が進む地域には、昔ながらの自然や伝統文化が数多く残されていることも事実である。どんなに開発が進んでも、これらの自然の中には、教材として活用できるものがたくさんあり、また地域の伝統文化の中には、教育的に意義のある風習や各種の行事等も多い。これらを通して「ふるさと学習」等を展開し、地域と児童生徒とのかかわりについて考えさせ、貴重な自然や伝統文化を伝承していくことも、非常に重要なことである。また、地域の教育的課題を踏まえ、家庭や地域と一体となった教育活動の推進等を基盤とした学校経営を進めることもでき、一人一人の個性や能力に応じた教育が可能となる。

しかし、その反面、対人関係の固定化の傾向が強いことなどもあり、活力のある学校の創造や精神的なたくましさの育成という点で課題を抱えている場合もある。

これらのことを十分把握し、問題解決的な学習や体験的な学習の重視、学習形態や地域素材を生かした学習教材の工夫、きめ細かな指導による学習指導方法の改善、合同学習・集合学習・交流学习等の推進、指導内容の重点化、複式指導の充実・改善等に積極的に取り組み、複式学級を有する学校の教育の現実的課題を早急に解決していかなければならない。

平成12年度末に県教育委員会は「小学校における指導の効果を高めるための指導法の改善について」という通知文を出し、特に複式学級を有する学校においては、教頭(分校主任)が恒常的に教科指導を行うことを位置付けた(平成22年度末一部変更:P28・29参照)。この取組は、これまで大きな課題であった小学校1年生を含む複式学級の指導について、大きな改善をもたらすものである。また、このことに加え、前述したようなさまざまな指導方法の工夫も合わせながら、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図るとともに、「生きる力」を身に付けさせていくことが重要である。教師が教育に対する使命感をもつことで学校が変わり、児童生徒が変容していくということをしっかりと念頭に置き、日々の教育活動を推進していきたいものである。

## 2 複式学級の編制

「公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律 第3条」において次のように定めてある。

学校の種類	学級編制の区分	1学級の児童又は生徒の数
小学校	同学年の児童で編制する学級 (第1学年の児童で編制する学級) 2の学年の児童で編制する学級 (第1学年の児童を含む学級) 学校教育法第81条第2項及び第3項に規定する特別支援学級	40人 (35人) 16人 (8人) 8人
中学校 (中等教育学校の前期課程を含む)	同学年の生徒で編制する学級 2の学年の生徒で編制する学級 学校教育法第81条第2項及び第3項に規定する特別支援学級	40人 8人 8人

小学校における飛び複式学級については、当該学級のいずれか1の学年の児童の数が8人(第1学年の児童を含む学級にあっては4人)を超えるものについては、当該2の学年による複式学級は編成しない。また、小学校の第1学年を含む場合の複式学級編制は、他の学年の場合と異なるので注意が必要である。このことは、その年度の職員構成にもかかわりがあるので、市町村教育委員会との緊密な連携が大切である。

中学校における飛び複式学級については、当該学級のいずれか1の学年の生徒の数が4人を超えるものについては、当該複式学級は編成しない。

## 3 複式学級を有する学校の一般的特性

複式学級を有する学校は、その地域性や小規模性からおよそ次のような教育指導上の長所をもつことが多い。

観 点	長 所 と 思 わ れ る 点
指 導 体 制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 校長、教頭のリーダーシップがいき届きやすい。</li> <li>・ 共通理解や共通実践が比較的容易である。</li> <li>・ 各教師が個性を発揮しやすい。</li> <li>・ 個に応じた指導がしやすい。</li> <li>・ 全職員が全児童生徒と触れ合うことができる。</li> <li>・ 柔軟な指導方法や形態がとれる。</li> <li>・ 学校と地域が一体となった教育がしやすい。</li> <li>・ 他の学校との交流がしやすい。</li> <li>・ 体験活動の場が数多くある。</li> </ul>

観 点	長 所 と 思 わ れ る 点
地 域	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の全戸がPTA会員である場合が多く、学校への協力体制が整っている。</li> <li>・学校及び職員への信頼・尊敬の念が強い。</li> <li>・豊かな自然が残っている。</li> <li>・人々の心のつながりが深い。</li> </ul>
児 童	<ul style="list-style-type: none"> <li>・互いをよく知っている。</li> <li>・純朴で素直である。</li> <li>・勤労生産的活動に意欲的である。</li> <li>・上級生が下級生の世話をよく行う。</li> <li>・学校及び職員を尊敬する意識が高い。</li> <li>・非行など生活面の問題行動が少ない。</li> </ul>

## 第2節 複式学級を有する学校の一般的な教育的課題

複式学級を有する学校で考えられる一般的な教育的課題の主なものは、次の3項目にかかわることが考えられる。

- 1 学校の教育目標の具現化のため、職員の個性や構成規模に応じた学校運営の工夫
- 2 多様で複雑な人間関係の現実社会を生き抜くための精神的なたくましさの育成を目指した教育課程の工夫、及び隣接学校間の集合学習・交流学习等の連携の工夫
- 3 自ら学ぶ能力や態度を育成する学習指導や学習活動の工夫

この3項目をみても分かるように、学校教育に課せられた課題は非常に多様である。教育水準の維持向上はもちろんのこと、生徒指導、道徳教育、人権教育等にみられる急速な社会の変化に対応できる児童生徒を育成することなど、課題が次々と生まれているのが現状である。

したがって、各学校においては、これらの社会の変化や動向に対し、常に高いアンテナをはりながら、学校職員が一体となって取り組む課題は何なのかを明確にしていく必要がある。学校に与えられた課題すべてを網羅的に並べ「学校の教育的課題」とする学校も見受けられるが、課題を具体的に解決し、子どもたちをさらに大きく伸ばしていくためには、それらを十分に焦点化することが重要である。

その場合の視点としては、次のようなことが考えられる。

- 児童生徒や地域の実態にあっているか。
- 教職員が必然性や解決の見通しをもっているか。
- 児童生徒及び学校や地域の変容を確かめられる内容であるか。
- 具体性があり、分かりやすいか。

### 第3節 複式学級を有する学校におけるこれからの教育

#### 1 知識・技能の習得や豊かな心、健やかな体の育成

今回の学習指導要領の改訂は、教育基本法や学校教育法の規定に則り、中央教育審議会の答申を踏まえ、次の方針に基づき行われた。

##### 改訂の 基本方針

- 教育基本法改正等で明確となった教育の理念を踏まえ「生きる力」を育成すること
- 知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視すること
- 道徳教育や体育などの充実により、豊かな心や健やかな体を育成すること

「生きる力」という学習指導要領の理念は、学校・家庭・地域の三者においてその理念の共有が重視されている。その背景には、「生きる力」がこれからの「知識基盤社会」の時代を担う児童生徒にとって重要な能力であるという考えに基づいている。

これは言うまでもなく、複式学級を有する学校においても求められる理念であり、これらを踏まえて、特色ある教育を創造し、教育課程の編成・実施にあたらなければならない。

#### 2 特色ある教育の創造

「学校の特色」は、学校内外の長所等を分析するとともにそれらを焦点化することで生まれるものである。焦点化された学校の特色を生かして、「特色ある教育の創造」のための具体的な取組を行っていく必要がある。

特色ある教育を創造する際、次の視点が考えられる。

##### 特色ある教育の創造の視点（新学習指導要領）

- 基礎的・基本的な知識・技能の習得
- 思考力、判断力、表現力、その他の能力の育成
- 学習意欲の向上や学習習慣の確立
- 豊かな心や健やかな体の育成

複式学級を有する学校においても「個に応じた指導」や「協力的な地域の人々」などの長所等を明らかにすることで、学校の特色を明確にした教育の創造を比較的容易に行うことができる。例えば、特色ある学校を創造する際、次のような例が考えられる。

##### 複式学級を有する学校における特色ある教育の創造の例

- 少人数であることを生かした学力向上の対策に関すること
- 保護者や地域の人々の協力を得ながら行う学習に関すること
- 地域の豊かな自然を取り入れた学習活動に関すること
- 地域に伝わる伝統文化の伝承に関すること

##### 配慮事項

- PDCAマネジメントサイクルを機能させる必要がある。
- 教職員の在任期間があることからの確かな引継ぎを行う必要がある。
- 教職員の異動があっても継続的に取り組むことができるようにする必要がある。

学校に特色をもたせることは、児童生徒のみならず、教職員、さらには保護者や地域の人々にも目標や夢、自信や誇りを与える上で有意義であり、そのことによって、学校や地域に活力が生じることが考えられる。

## 第4節 複式学級を有する学校の学校評価の在り方

地域に関われ信頼される学校づくりを実現するためには、学校が自らの取組について自己評価や学校関係者評価を行い、その結果を公表することによって教育活動や学校運営の改善を図ることが大切である。

複式学級を有する学校においては、小規模校という特性を踏まえ、保護者や地域住民の参画を経て、学校・家庭・地域社会が一体となって取り組むという、地域ぐるみの教育を推進していくことが特に求められている。

具体的には、アンケート等の調査対象者としての参加はもちろんのこと、評価活動の企画・立案や改善策の検討についても、保護者や地域住民の意向が、一層反映されるような参画を推進していくことである。このように、評価活動を通して、学校・家庭・地域社会のコミュニケーションを図るとともに、それぞれの役割についての明確化や相互理解等により、「よりよいパートナーシップ」の構築を図り、確かな信頼関係を基盤とした地域ぐるみの教育を推進していくことが重要である。

### 1 学校評価の実施方法

#### (1) 各学校の教職員が行う評価【自己評価】

自己評価は、学校評価の基本となるものであり、学校の全教職員が参加し、設定した目標や具体的計画等に照らして、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価を行うものである。また、児童生徒、保護者、地域住民から寄せられた具体的な意見や要望、児童生徒による授業評価など、児童生徒、保護者、地域住民を対象とする外部アンケートの結果を活用し、より客観性の高い評価とすることが大切である。

#### (2) 保護者、地域住民の学校関係者などにより構成された評価委員会が、自己評価の結果について評価することを基本として行う評価【学校関係者評価】

学校関係者評価とは、学校が行った自己評価結果を保護者や地域住民、教職員以外の学校関係者が評価を行うものである。

評価の目的は、学校の自己評価の客観性を高めるとともに、教職員と保護者・地域住民が学校の運営の現状と課題について共通理解を図り、教育活動や学校運営の改善がより適切に行われるようにすることである。

#### (3) 学校評価の結果の公表と情報提供

学校は、自己評価・学校関係者評価の結果と、それらを踏まえた今後の改善方策について、学校だよりへの掲載、PTA総会の活用、学校のホームページや地域広報誌への掲載などにより、広く保護者や地域住民に公表する。また、学校に関する情報を保護者や地域住民に積極的に公表することも大切である。

#### 学校が提供する情報（例）

- ・学校の教育目標 ・学校経営計画 ・教育課程 ・学校保健計画 ・学校安全計画
- ・学校の概要（学校の沿革、学校の特色、学級数など）
- ・学校の特色に応じた学習内容や指導形態、指導方法 ・学校行事の内容
- ・児童生徒の状況（知・徳・体を含めた児童生徒の学習・生活の様子、進路状況など）
- ・学校評議員等の設置状況 ・PTA活動の状況 ・家庭・地域社会との連携の状況
- ・学校開放の状況 ・学校の自己評価の報告書 ・学校関係者評価の報告書

※ 『共に子どもを育む学校評価』ガイドライン（改訂版） 平成20年4月 宮崎県教育委員会」  
『学校評価ガイドライン』（平成22年 改訂） 平成22年7月 文部科学省」 参照

## 2 自己評価に生かす外部アンケートの例

自己評価を行う上で、児童や保護者、地域住民を対象とするアンケートによる評価や保護者との懇談会を通じて、授業の理解度や児童・保護者がどのような意見や要望をもっているかを把握することが重要である。

以下に示したのは、学力向上に焦点を当てたアンケートの例である。

### 「児童による評価」

A…はい B…どちらとも言えない C…いいえ

分類	番号	項目	評価
学力向上	1	学校の授業は、よく分かりましたか。	A B C
	2	宿題や宅習方法は、よく分かりましたか。	A B C
	3	森林体験学習やむかばき宿泊学習は、ためになりましたか。	A B C
	4	図書室ややまびこ号の本を楽しく読みましたか。	A B C
	5	コンピュータを使う力が伸びたと思いますか。	A B C

### 「保護者による評価」

A…大変よい B…よい C…もう少し努力を D…不十分

分類	番号	項目	評価
学力向上	1	先生は、授業を工夫するなど、分かりやすい授業に努めている。	A B C D
	2	先生は、宿題や宅習方法の手だてを示すなど、家庭学習の支援に取り組んでいる。	A B C D
	3	学校は、森林体験学習や全校宿泊学習などを通して、ふるさとを愛する心を育てる教育を推進している。	A B C D
	4	学校は、読書活動についてその機会を増やすなど、読書に対する意欲を高めている。	A B C D
	5	先生は、コンピュータの使い方や、情報モラルに関する指導を行っている。	A B C D

### 「地域住民代表による評価」

A…大変よい B…よい C…もう少し努力を D…不十分

分類	番号	項目	評価
学力向上	1	先生は、分かりやすい授業に努めている。	A B C D
	2	児童は、学習態度が良く、熱心に学習に取り組んでいる。	A B C D
	3	学校は、地域の環境を生かした教育活動を推進している。	A B C D
	4	学校は、読書に対する意欲を高めている。	A B C D
	5	学校はコンピュータの使い方などの指導を推進している。	A B C D

※ 小規模校では、児童の生活状況や学習状況の情報を公開することで、結果として個人のプライバシーを公開してしまう危険性があるので、アンケート内容については、十分な配慮を要する。

## 第5節 複式学級における学級経営

学級経営は、学校経営方針の下、学校の教育目標の具現化を図るために、望ましい学級集団としての学級に変容させる、学級担任による意図的・計画的な営みである。

複式学級を有する学校では、小規模性・少人数性等の実態に配慮した学校の教育目標のもと、それに応じた複式学級経営が行われることになるが、この際、複式学級の特性を十分理解して学級経営を行うことが必要である。

学級目標は、「学校の教育目標→学級の教育目標」という体系を踏まえて設定される必要がある。複式学級としての特性に立って、学年別の到達度を配慮した目標の設定が望まれる。

### 1 学級の教育目標と方針

複式学級の経営を担う学級担任は、学校の教育目標とその具体的内容をよく理解した上で自分の学級がもつ特質を考慮して、学級の教育目標と方針を具体的に示し、その達成に努めることが必要になる。

### 2 学級経営案

学級経営案は、学級の教育目標の実現に向けての教育活動の方針と内容が、具体的に示されたものである。学級における教育活動の全体像及び未来像ともいうべきものである。

#### 学級経営案の内容（例）

- ① 学校の教育目標及び学級の教育目標
  - ・学校の教育目標
  - ・学級の教育目標
  - ・学級経営方針
- ② 学級の実態
  - ・地理的、社会的、文化的等の環境
  - ・学習に係る能力等の特性
  - ・行動上の特性
  - ・その他
- ③ 学級経営努力事項
  - 学習指導
    - ・教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動
  - 生徒指導
  - 保健安全
  - 環境整備
  - 家庭や地域との連携・融合
  - その他
- ④ 他の学級担任との指導組織分担（全校的な活動との関連に配慮）
- ⑤ 反省及び評価

### 3 複式学級における学級経営上の留意事項

複式学級においては、その特性について研修を深めるとともに、複式学級の経営にふさわしい指導技術を身に付けることが最も重要である。その際、次のような点に留意した経営が重要である。

#### (1) 学級経営上の留意点

- 学校の教育目標や教育的課題について、その背景や理由等を理解しておく。
- 複式指導特有の諸用語を理解しておく。
- 2学年1学級という学級編制がもたらす指導上の長所や課題について熟知し、課題解明の方法を模索する。
- 学級経営は即学校経営につながるという認識をもつ。
- 担当する係の職務内容について自分なりのマニュアルを作成し、効率的で効果的な遂行を期するとともに、常に次年度への引継ぎを配慮した資料の累積・整備に努める。
- 地域とともに存在する学校であることの認識を深め、児童生徒はもちろんのこと保護者や地域の人々の中にとけこむ楽しさを味わわせるようにする。

#### (2) 学習指導上の留意点

- 個の最大限の能力発揮・伸長に努める。
- 学び方の指導に力を入れ、自ら主体的に学ぶ方法を身に付けさせるとともに、学習の楽しさを経験させる。
- 地域の文化や地域の豊かな自然を積極的に取り入れた体験的な学習を行う。
- 身に付けるべき基礎的・基本的な内容を精選し、その内容について指導の徹底を図る。

#### (3) 生徒指導上の留意点

- 合同学習・集合学習・交流学習、中学校との合同研究会等ダイナミックな指導の在り方を取り入れながら、教師と児童生徒及び児童生徒相互の好ましい人間関係を育てるとともに、社会的資質や行動力の高揚を図る。
- 自己肯定感や自尊感情を育て、他者とのよりよい関係を築くための場や学習の機会を設定する。

※ 参考資料（学級経営案の例）

第5・6学年		学 級 経 営 案		担任（ ）	
教育目標	ふるさとを愛し、ふるさとを誇りとし、心豊かにたくましく生きる児童の育成 〈児童像〉 「よく考え工夫する子ども」「健康でたくましい子ども」「明るくやさしい子ども」				
学級目標	「めざす児童像」の学級における具体化 「基礎的・基本的な知識・技能を十分に身に付け、体験を通して楽しく学ぶことができる子ども」 「自分の身体と、心の成長に気づき命を大切にできる子ども」 「心のこもった挨拶ができ、すべての人や物に対して思いやりの心をもつ子ども」				
経営方針	一人一人を大切にしながら、学級の中で自己の存在感がもてるようにしたい。仲よく遊び、仲よく勉強しながら、共に学び合う心を育てていきたい。上学年の自覚をもたせ、行事などの活動を通して、学校を引っ張っていく機動力であることを感じさせたい。動物や植物の世話を通して、命の大切さにも気付かせたい。また、時間を守りけじめある態度がとれるように励ましの言葉をかけながら実践していきたい。みんなで学び合うという心をもたせ、磨き合う心を育て思いやりの心をもった児童を育てたい。				
学年目標	5 年		6 年		
	けじめをつけて意欲的に何事にも取り組む、協力的な学年		最上級生の自覚のもと、下学年をリードしながら、責任ある行動のとれる学年		
在籍	5年：男子（3名）、女子（3名）		6年：男子（1名）、女子（2名）		
学級の特質	・明るく活動的で何事にも意欲的に取り組むが、持続力にかけるところがある。				
学習面	・いろいろなことに意欲的に取り組むよさがある。 ・落ち着いた学習ができるが、発表力・作業能力に個人差がある。 ・個別指導を要する児童が3名いる。 ・発表の音が小さく、最後までしっかり話そうとしない。				
生活面	・清掃や係活動などの取組は良いが、最後まできちんとやり抜くことができない。				
保健安全面	・下級生と仲よく遊ぶことができる。 ・肥満傾向の児童が3名いる。 ・基本的な生活習慣があまり身に付いていない。				
その他	・参観日の出席率が高く、学校行事等に対する協力がある。 ・ハス通学の児童が2名いる。 ・少年野球に所属している児童が4名いる。				

具 体 的 な 実 践 事 項			学期反省		
			1	2	3
学級経営の努力事項	教科	・国語に対する関心を深め、国語を尊重する態度を育て思いやりのある表現ができるようにする。 ・社会生活での体験からいろいろなことを学ばせ、公共心、協力する心を育てる。 ・数の仕組みを理解して、進んで生活に生かす態度を育てる。 ・自然に親しみ、自然の中から学ぼうとする態度を養う。 ・音楽活動を楽しみ、体で音を感じ表現できるようにする。 ・表現の喜びを味わわせ、豊かな感性と伸び伸びとした表現力を養う。 ・家庭生活の役割の理解と家族の一員としての役割を果たそうという実践力を養う。 ・健康増進と体力の向上を図り、みんなで協力して明るく楽しい生活を営む態度を養う。	2		
	道徳	道徳実践力を身に付けさせ、学校教育活動全般においてほめる教育を推進する。 ・友達を大切にし、協力し合いながら助け合う態度を育てる。 ・ふるさとを大切にできる心と態度を育てる。 ・生命を尊び、いろいろなものに感動する心を育てる。 ・目標をもって最後まで粘り強く頑張ろうとする心を育てる。	2		
	外国語活動	外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながらコミュニケーション能力の素地を養う。	3		
	総合的な学習の時間	横断的・総合的な学習や児童の興味関心に基づく学習過程を通して、自ら課題を見付け、自ら考え、問題を解決する力を身に付ける。	3		
	特別活動	基本的な生活習慣を育て望ましい人間関係を育成し、豊かな体験活動を通して児童の活動を重視するように努める。	2		
生徒指導	・児童の悩みや心配ごとは教育相談や日記から実態をよみ取り解決していく。 ・たえず子どもの言葉に耳を傾け、何でも話す雰囲気やみんなのことはみんなて解決していこうとする態度を育てていく。	2			
保健安全指導	・エチケットデーでの指導の充実を図り、個別指導をしながら、基本的な生活習慣を身に付けさせる。 ・偏食をなくし給食が時間内に食べられるように指導する。 ・校舎内外での安全に対する意識を高め、安全に生活する態度を育てる。	1			
教室環境	・整理整頓をし、学習意欲が高まるような教室設営に努める。 ・動物・植物を育てながら命の大切さに気付かせるようにする。	3			
家庭との連絡	・家庭訪問を通して、児童の家庭環境を理解し、指導に役立てる。 ・何かあったときは、迅速に家庭に連絡する。 ・学級懇談の時間を有意義に使い、情報交換の場とする。	2			
その他	・読書指導を通して、心豊かな児童の育成に努める。 ・学級事務や校務分掌の仕事を確実に早め実施する。	2			
反省	1学期	2学期	3学期		
省	校舎内における雨の日の過ごし方など危険予知能力の育成に課題があることが分かった。全教育活動で、危険予知能力の更なる育成を図っていく。				